

No. 1404 2014年(平成26年)10月20日号

物流 Weekly

ウィークリー



躍進する 女性陣

第386回

アサヒロジスティクス
鈴木陽子さん

「私のところに無事に帰ってきなさい」。そう言ってドライバーを送り出すアサヒロジスティクス(横浜元樹社長、埼玉県比企郡)の愛川物流センターで統括リーダーを務める鈴木陽子さん。運行の常駐を担当するほか、要請に応じて自らもハンドルをにぎる。

鈴木さんがプロドライバーになったのは運転免許を取得して間もない頃。すでに美容師として働いていたが、ドライバーは一度経験してみたい仕事だった。「実際に始めてみたら、楽しくて辞められなくなってしまう」と笑う。当時、女性のドライバーは珍しく、苦勞も多かった。「トラックの中で泣いたこともあった」と当時を振り返る。

「女性だから」という批判に負けないよう必死に働き、同社に入社したのは平成17年のこと。その熱意と仕事ぶりが認められ、入社3年目に選出された。「お客さんからの信頼も厚く、仲間のドライバーからも頼りにされている」と上司の星野力センター長もその実力を認めている。「お客さんから『鈴木さんの声を聞くと元気になる』と言われると本当に嬉しい」と鈴木さん。明るい性格は社内にもいい影響を与えている。昔は他部署との間に見えない壁があったが、「鈴木さんが積極的にコミュニケーションをとったことで職場に一体感が生まれた」と星野センター長は指摘する。

鈴木さんにとってかけがえのないものが、2人の子どもの時間。帰宅後の休日には、どんなに疲れていても子どもと一緒に過ごすようにしている。「家族に支えられて、好きな仕事をやらせてもらっている」と感謝を欠かさない。

ドライバーのリーダーとして、若手の育成にも力を注いできた。新人指導の時は「トラックや荷物を自分の一番大切な人だと思って取り扱うように」と教える。

「ドライバーが無事に帰って来るのが一番の願い。『センターを守っていききたい』、立ち上がってくれる若手も大切にしていきたい」と目を細める。

(田川侑史)

願いは「無事に帰ってくる」